

第9回 日本遺産「里沼」テーマ別 タスクフォース情報共有会議

- 1) 日 時 令和7年3月21日(金) (書面開催)
- 2) 関係課 館林市役所「里沼」関係課職員
- 3) 各チーム報告

	各TFチームの取組み報告	質問・意見等	方向性
1	組織戦略チーム (企画課、文化振興課)		
	日本遺産「里沼」地域プロデューサーと連動する市役所内のタスクフォース情報共有会議を不定期に開催しており、関係部署同士の情報交換・課題解決に取り組んでいる。	なし	引続き、効果的・戦略的な事業推進のため、事業方針の検討や各種会議の開催、関係機関との調整等を行う。
2	観光事業チーム (市民協働課・農業振興課・商工課・つつじのまち観光課・緑のまち推進課・文化振興課)		
	地域プロデューサー・地域の民間プレーヤーの人材育成事業を推進しながら、ワークショップ(32回)を実施した。 また官学連携事業では、地元高校生や大学生も巻き込み、学生たちが積極的にイベント等に携わるなど、事業参画に繋がっている。	なし	引続き、「里沼」に関する観光イベント等を開始し、国内外問わず、広く観光誘客を促進する。 「里沼」に関する商品等を開発し、販促を行う。 「里沼」に係るガイド等を育成する。
	百年小麦ブランド化委員会では、収穫体験・播種体験、講座や幼稚園への食育事業を行った。 また、東京池袋駅ではパネル展示と販売会、アサヒ工場フェスタでも販売会を実施した。 百年小麦PR班(館林商工との連携)では、うどん打ち教室や明和町産業祭での販売会を行った。		
	農商工連携事業として、館林市産業祭でのミニマルシェを行い「里沼」商品の販売促進を行い、農産物ブランド化推進事業では、「里沼はちみつ」のブランド化を後押しした。		
	レンタサイクル貸出場所として、新たに里沼リゾートHotel KOMORINUにて8月から貸出を開始した。 マイクロツーリズム造成支援事業では、「子ども体験プログラム in 館林 日帰りツアー」や期間限定「お花見プラン」を開催し、観光誘客につながる事業を実施した。		
	市内3か所の沼を巡る、里沼めぐり巡回バスを試験的に運行(3月30日・4月20日)を予定し、「里沼」地域の活性化へ繋がる事業を実施する。		
3	整備保全チーム (地球環境課・つつじのまち観光課・都市計画課・道路河川課・緑のまち推進課・文化振興課)		
	茂林寺湿原に関する取組みとして、湿原健全化に向け、新たに井戸掘削工事を行い、アダプト(有償ボランティア)委託の導入を行った。 また、普及活動として自然学習会や昆虫調査隊による調査を実施した。	なし	引続き、構成文化財の整備・保全を適正に行う。
	城沼(鶴生田川)の水質浄化に向け、引続き多々良沼からの導水事業を実施し、水質調査を行った。		
	城沼周辺の観光振興や地域の活性化に向け、用途変更の見直し(用途の緩和)を行った。 また、茂林寺沼南岸の利活用に向け、風致の維持と観光の両立を図るため、茂林寺公園区域の都市計画変更を行い、公園区域と南岸用地利活用事業区域が明確にした。		
4	普及発信チーム (秘書課・市民協働課・つつじのまち観光課・文化振興課)		
	12月に小・中学生を対象とした認知度調査を実施。里沼の認知度が92.16%を記録し、高い認知度を得ている状況。 2月には日本遺産・織物フェスタ in 桐生を開催し、	なし	引続き、出前講座等を実施し、「里沼」に対する市民等の理解を深める。

<p>今後の日本遺産の魅力発信につながるためのシンポジウムを開催した。 また各種イベントではPRブースを出店し、「里沼」の普及活動を行った。</p>		<p>HP、SNS等を用い、「里沼」に関する情報を積極的に広く発信する。</p>
<p>学校への普及活動としては、総合学習での座学(11回)やヨシ等を使ったワークショップ(12回)、里沼を舞台としたフィールドワーク(6回)を開催した。</p>		
<p>里沼シティブロモーションとして、群馬県内スポーツチーム連携事業として、集客を多く見込む野球・バスケットボールと連携し、PR活動を実施した。</p>		
<p>アーティスト3名による「里沼」の素材を生かしたアーティストレジデンス(滞在型の芸術制作)を行い、完成した作品を「旧秋元別邸」に展示し、アーティストが体感した館林市の新たな魅力を発信した。</p>		
<p>里沼ストーリーに感銘を受けた映画監督が多々里沼を舞台とした「ものがたりの予感」を短編映画として製作、ぐんま次世代映像クリエイターコンペション2024において最優秀賞を受賞し、映画を通じた里沼の普及活動に繋がっている。</p>		
<p>日本遺産「里沼」ストーリーを構成する近世館林城主「榊原康政」にスポットを当て、時代劇を通じた普及活動を行った。</p>		
<p>日本遺産「里沼」において“守りの沼”・城沼エリアを構成する「青龍伝説」をテーマとした地元密着型の演劇披露会を通じた普及活動を行った。</p>		
<p>日本遺産「里沼」公式Webサイトや「里沼」公式Xを通して、新たな「里沼」の魅力を情報発信した。</p>		

4) 令和7年度日本遺産総括評価・継続審査制度について

①これまでの経緯等

- ・令和7年1月28日に、文化庁より「日本遺産を通じた地域活性化計画実績報告書及び新たな地域活性化計画の提出について」の依頼があった。
- ・2月6日に『「里沼」テーマ別 タスクフォース観光事業チーム会議』を開催し、関連する部署において文化庁のオンライン説明会に出席。説明会出席後、意見交換を行った。
- ・その後、関連する部署において「地域活性化計画実績報告書」及び新たな「地域活性化計画」を策定し、文化庁への提出前相談(仮提出)及び『令和6年度第2回館林市「日本遺産」推進協議会(書面開催)』への発議を行い、3月5日に本提出を完了した。

②今後の取組

- ・総括評価・再審査への対応
今後、令和7年4月頃に書面審査、5月～6月頃に有識者による現地調査等を行い、有識者会議において審議を経て7月頃(予定)に結果が公表される。
- ・新たな「地域活性化計画」の事業推進
日本遺産は、歴史的・文化的な蓄積を具現化したストーリーを中心に据えた文化観光(文化について理解を深めることを目的とする観光)である。
- ・認定継続となった場合においても、新たな「地域活性化計画」に基づく7つの事業(組織整備、政策立案、人材育成、整備、観光事業化、普及啓発、情報編集・発信)の取組が必要であり、庁内一丸となって推進を行う。

以上